

# ふくおかの40年

～「ふくおかの統計」400号にあたって～

「ふくおかの統計」は「統計時報」として昭和39年7月に季報版として発刊以来、本号で400号を数えます。昭和47年からは隔月刊となり、昭和52年4月に月刊化する際に現在の名称に変更し、今日に至っております。

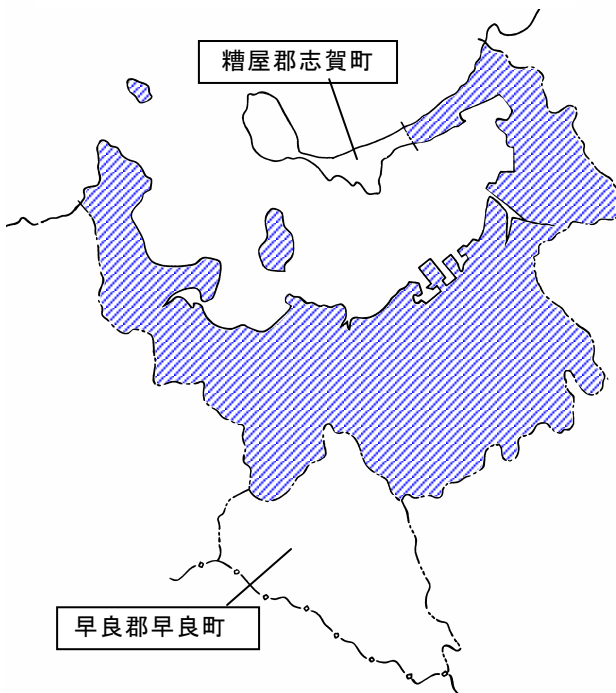
今回の特集では発刊当時と現在の福岡市の姿を対比しながら、暮らしの変化をみていきます。

## 1. 40年前と現在の市域と人口

今年のアテネでオリンピックが開催されましたが、40年前は東京オリンピックが開催された年です。当時の福岡市の状況と現在を、第1号掲載の統計と比較して見てみます。

昭和38年10月時点での福岡市の面積は240.20 km<sup>2</sup>。その後、志賀町(昭和46年4月、11.87 km<sup>2</sup>)と早良町(昭和50年3月、76.73 km<sup>2</sup>)の編入、および海岸の埋立(11.8km<sup>2</sup>)により、現在の市域(340.60 km<sup>2</sup>)となっています。

図1 昭和39年の福岡市域



人口は登録人口で723,514人、世帯数は196,257世帯で人口密度は3,012人/km<sup>2</sup>。人口の伸び(1.92倍)に比べ世帯数の伸び(3.27倍)が目立ちます。これは1世帯あたりの人員が核家族化などにより減少したことによります。昭和40年の国勢調査では、平均世帯人員が3.65人であったのに対し、平成12年調査では2.20人、さらに最新の推計人口では2.17人にまで減少し、家族構成は大きく変化しています。

また、人口動態を見てみますと、人口が大きく増加(1.92倍)しているにもかかわらず出生数が伸びないため、出生数と死亡数の差である自然動態の増加の伸びが小さくなっています(昭和38年の8,971人→平成15年の4,741人)。また、市外との転出入等を主な要因とする社会動態も、市外からの流入が市外への流出を大きく上回っていた40年前(15,077人)と比べ、平成15年にはその差が小さく(4,824人)なっています。

表1 福岡市の世帯及び人口

	昭和38年10月 (A)	平成16年8月 (B)	(B) / (A)
面積(km <sup>2</sup> )	240.20	340.60	1.42
世帯数	196,257	641,874	3.27
人口総数	723,514	1,390,498	1.92
男	355,827	668,557	1.88
女	367,687	721,941	1.96
人口密度	3,012	4,082	1.36
1世帯あたりの人員	3.69	2.17	

(世帯数・人口はそれぞれの月の1日現在の推計値)

表2 福岡市の人口動態

	昭和38年	平成15年
自然動態増減数	8,971	4,741
出生	13,651	13,127
死亡	4,680	8,386
社会動態増減数	15,077	4,824
市外から転入	61,250	79,252
市外へ転出	46,173	74,464

(注) 社会動態は市外との転出入の他にも要因があるため、両者を差引しても、全体の増減と一致しない場合がある。

## 2. 人口の構成

ここでは、人口ピラミッドにより、人口構成の違いをみていきます。なお、昭和39年当時は毎月年齢階級別人口を算出しておらず、資料がありませんので、昭和40年に行われた国勢調査の値と、平成16年7月末現在の登録人口を使って、全体的な傾向として見ていきます。

全体の形ですが、昭和40年は18歳の階層（図中の☆印の層）が最も多く（第1次ベビーブーム世代（昭和22～24年生））、年齢が上がるに従い、なだらかに減少する傾向を見せています。平成16年はその第1次ベビーブーム世代をそのまま上昇させ、この後訪れた第2次ベビーブーム世代（昭和46～49年生）が、20歳代から30歳代の若年層が多いという本市の特性と重なることにより、この年代に山を形作っています。なお、本市だけで見れ

ば若年層が比較的多いといえます。

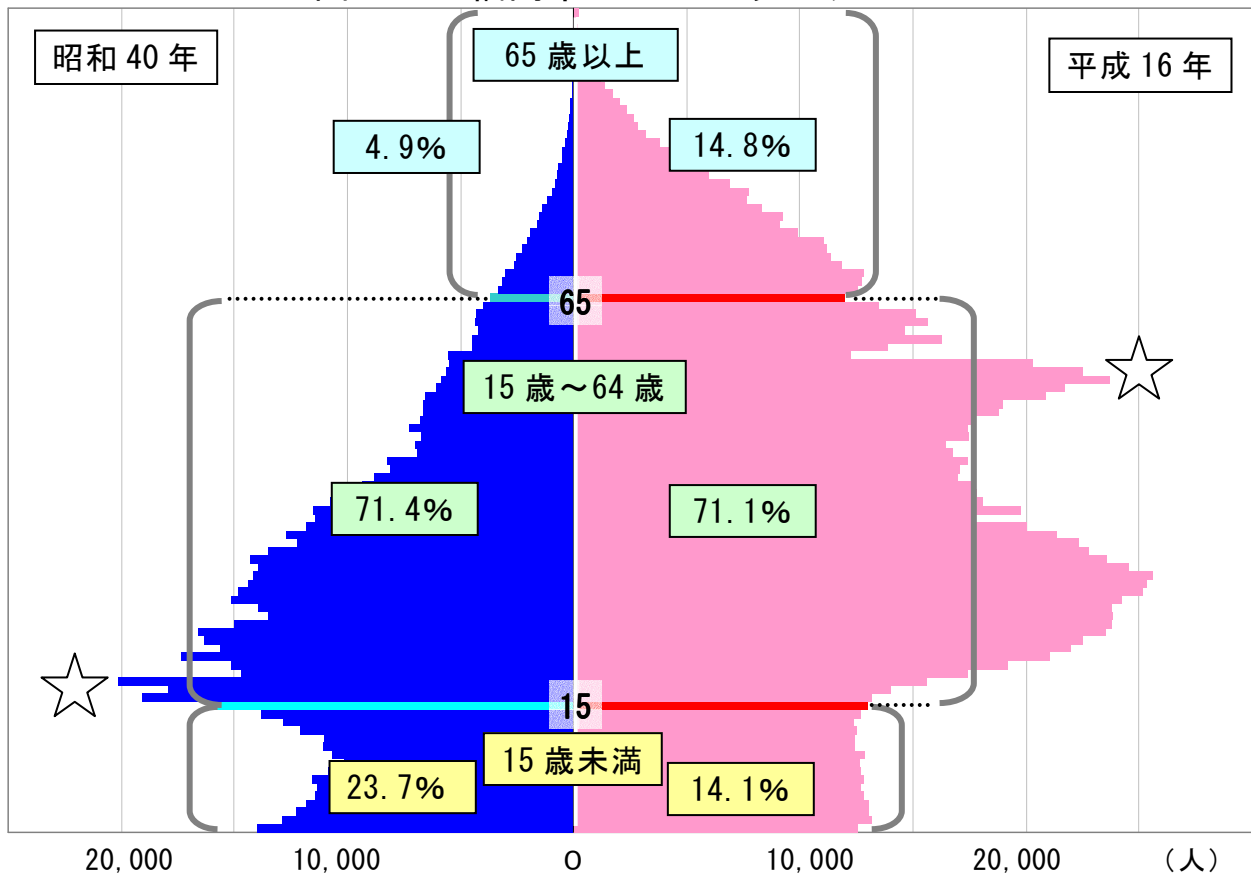
各年代の割合をみますと、15歳～64歳の全体に占める割合はほぼ変わりません（昭和40年71.4%→平成16年71.1%）が、15歳未満の占める割合が減り（昭和40年23.7%→平成16年14.1%）、その減少割合と65歳以上の増加割合がほぼ同じとなっています（昭和40年4.9%→平成16年14.8%）。

表3 福岡市の年齢階層別人口

	昭和40年		平成16年	
	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)
15歳未満	177,944	23.7	190,974	14.1
15歳～64歳	535,597	71.4	964,316	71.1
65歳以上	36,246	4.8	200,147	14.8

（人口は本文中の算出基準による）

図2 福岡市の人口ピラミッド



### 3. 社会・経済

#### (1) 社会資本の整備

道路については市域の拡大とともに総延長も伸びてきましたが(1.58倍)、昭和38年度末においては舗装率が9.5%であったのに対し、平成14年度末には95.5%と、質の面での改良もみられます。

また、市内の水道整備が進み、配水管延長の伸び(7.16倍)とともに、人口の増加もあり給水量も大きく伸びています(3.35倍)。また、下水道も普及が進み、普及面積比で18.4倍、下水管きょ延長も27.6倍になっています。また、都市公園の整備も進み、公園面積も大きく伸びています(面積比15.3倍)。

#### (2) 交通・物流の変化

鉄道の面では昭和38年12月に博多駅が現在の位置に移転開業し、昭和50年には新幹線延伸と、とりまく状況は大きく変わりました。J R博多駅の乗降人員も3.27倍となってい

ます。また、天神地区への人や物の集積が進んだこともあり、西鉄福岡(天神)駅も乗降客は大きく増加しています(1.91倍)。さらに、鉄道とバスの連携からバスの車両数(2.93倍)や営業走行キロ数(2.31倍)も大きく伸びています。なお、この40年間に市内の鉄道交通体系は路面電車から地下鉄へと変化しています。

交通機関を利用した移動という面でもっとも大きな伸びを示したのは空港利用者です(38.22倍)。また同時に貨物取扱量も大きく増加しています(113.10倍)。物流の面では博多港もその重要性を増しています(トン数比11.02倍)。

また、自動車の登録台数が大きな伸び(11.56倍)を見せています。登録自動車総数のうち、特に乗用自動車が大きく伸びています(28.63倍)。

図3 社会基盤の整備

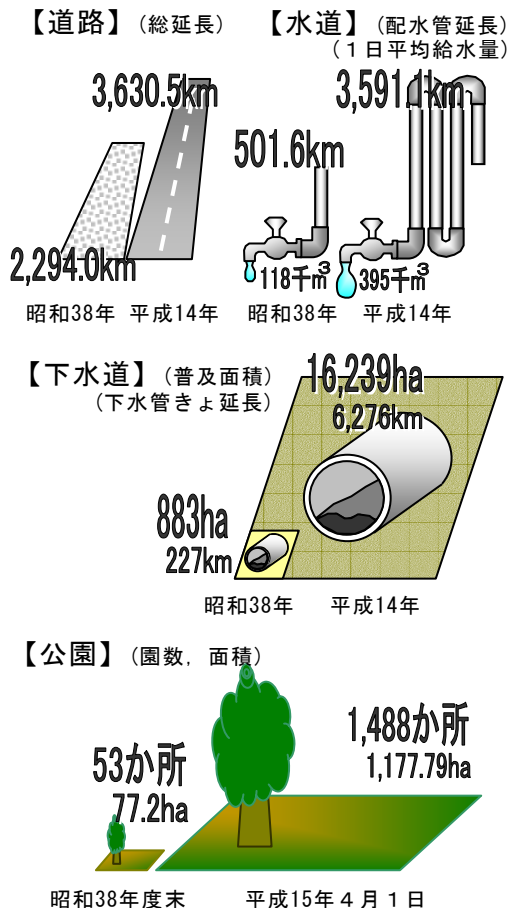


表4 社会・経済に関する各指標の変化

項目	単位	昭和38年(度) (A)	平成14年(度) (B)	(B)/(A)
<b>鉄道・バス</b>				
J R博多駅乗降人員 (平成14年度は新幹線乗降分を含む)	千人	25,847	84,465	3.27
西鉄福岡(天神)駅乗車人数	千人	注2) 14,066	26,919	1.91
市内バス 延実働車両数	台	* 133,805	* 392,591	2.93
営業走行キロ数	km	* 21,052,412	* 48,662,580	2.31
<b>空港利用状況</b>				
乗降人員(含 通過)	千人	* 510	* 19,493	38.22
うち国内線	千人	* 254	* 17,283	68.04
うち国際線	千人	* 256	* 2,211	8.64
貨物取扱量	トン	* 2,177	* 246,221	113.10
<b>博多港入港船舶</b>				
隻数	隻	* 25,051	* 41,851	1.67
トン数	トン	* 5,184,661	* 57,154,100	11.02
<b>自動車台数</b>				
登録自動車総数	台	45,009	520,109	11.56
うち乗用自動車	台	15,014	429,850	28.63
軽自動車	台	23,143	136,117	5.88
小型2輪車	台	351	16,185	46.11

(資料は「福岡市統計書」より。なお、内訳等は省略しているので、数値をご利用の際は必ず「福岡市統計書」でご確認ください。)

注1) \*印は「年」、無印は「年度」を単位としている。

#### 4. 市民生活

市民生活もまた大きく変化しています。総務省の家計調査の結果から市民生活の変化を見ていきます。

昭和38年では消費支出の中で食料費がかなり大きな割合（支出総額の20.1%）を占めていますが、平成15年平均では支出総額の7.2%を占めるにとどまり、エンゲル係数（家計の消費支出に占める食料費の割合）も昭和38年平均の36.9%から平成15年平均では21.9%と低下しています。

最後に昭和38年版「福岡市の1か月」を見てみましょう。

平成15年（表紙裏参照）は昭和38年と比べて、離婚（4.92倍）、ごみ収集（9.47倍）など、ほとんどが人口の伸び（1.92倍）より大きく、中でも救急出動は31.85倍とかなり増加しています。













減少したのは、前述した出生（0.96倍）のみでした。

表5 1世帯当たり1か月間の支出（勤労者世帯）

項 目	昭和38年平均		項 目	平成15年平均	
	金額	割合(%)		金額	割合(%)
支出総額	78,304	100.0	支出総額	1,069,251	100.0
実支出	47,301	60.4	実支出	428,360	40.1
消費支出	42,629	54.4	消費支出	351,514	32.9
うち食料費	15,734	20.1	うち食料	76,911	7.2
非消費支出	4,672	6.0	非消費支出	76,846	7.2
実支出以外の支出	15,269	19.5	実支出以外の支出	588,338	55.0
繰越金	15,734	20.1	繰越金	52,553	4.9
エンゲル係数(%)	36.9		エンゲル係数(%)	21.9	

※ 昭和56年に食料費以外の費目分類が変更されているため、大分類は食料費のみ掲載した。

表6 昭和38年版「福岡市の1か月」

項 目		昭和38年(度) 1か月平均	項 目		昭和38年(度) 1か月平均
出生		1,138人	ごみ収集		7,321 t (38年度)
死亡		390人	犯罪		2,090件
婚姻		614件	交通事故		544件 (下記注)
離婚		60件	火災		42件
消費者物価指数		(指数基準年が異なるため、掲載しません)	救急出動		143件
消費支出 (勤労者1世帯当たり)		42,629円	新設住宅着工		493戸 (38年度)

※ 交通事故件数については、福岡市を管轄に含む警察署管内の総数のため、周辺自治体も含んでいる。